

福岡市都市景観賞審査委員会委員（50音順、敬称略）

今村洋子 九州朝日放送（株）テレビ営業推進部専門部長

岡本均 西日本短期大学教授

佐藤優 九州芸術工科大学教授

高泰久 福岡市都市整備局長

竹下輝和 九州大学大学院教授

永崎明子 九州造形短期大学教授

仲間浩一 九州工業大学助教授

西山徳明 九州芸術工科大学助教授

馬場周一郎 西日本新聞社（株）長崎総局長

第14回 福岡市都市景観賞 受賞作品

FUKUOKA URBAN
BEAUTIFICATION
AWARD 2000



景観賞推薦者635人、エッセー応募者72人と、昨年に引き続いて市民の高い関心と期待が寄せられた。今年は、私たちの暮らしの中で親しまれ、勇気を与えてくれる景観に注目した。「香椎宮参道のクス並木」や「西の堤池」などがその代表的な例である。「中央区警固の家」も大切にしたい日常的な街角である。「株式会社サンコー本社屋」は倉庫と社屋との関係がうまく処理されている。「西南学院高等学校講堂」は西新に豊かな彩りを与えてきたが、見た目より傷みが激しい。修復してより良く活用されることを期待する。選外で印象的だったのは「博多港サイロ第3サイロ」で、業務的な景観を見直すべきではないか、博多港の役割を象徴している、等の意見があったが、評価

が分かれて見送られた。市民がこのような地味な努力にも目を向けていることに注目すべきである。今回の審査委員会では、日常生活を潤す景観の意味について深く考え、これからの福岡を豊かにしていく兆しを発見しようと努めた。特別表彰の「西鉄100円バス」は、自転車よりも気軽に都心を回遊できるようにした。景観エッセーにも秀作がそろい、空間的な広がりを見せる「日曜日の早起き“姪浜漁港”」や「海と山が見える今川橋」と、時を超えて心が伝わる「21世紀もこのままでいて欲しいお地藏さん」や「私の天神町」とが好対照で、素晴らしい情景描写に感動した。皆さんの身近な景観を大切にしてほしい。

（審査委員長 佐藤 優）

